小坂子一木峯遺跡 II

小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道06-475）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

小坂子一木峯遺跡 II

小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道06-475）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００６．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

前橋市・大胡町・宮城村・粕川村の１市１町２村は平成 16 年 12 月５日に合併を行い、赤城山南麓の広範囲を占めることとなりました。

かつて、この地の養蚕を支えた風物詩といえる桑畑は消えゆく運命を辿っております。近年、赤城山南麓一帯は産業構造の変化と相まって大規模な圃場整備事業や工業団地、住宅団地造成、道路建設が広範囲に実施されたため数多くの発掘調査が展開されました。

小坂子町に所在する小坂子一木峯遺跡も赤城山南麓に立地するものであり、調査によって古代の住居跡や溝跡を検出することができました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関の物心両面にわたるご協力や各方面のご配慮の結果といえます。また、調査が円滑に進められたのは、調査に携わってくださった作業員のみなさんのお陰です。ここに厚くお礼申しあげます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 18 年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　**根　岸　　雅**

例　　言

1．本報告書は、小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道 06-475）改良工事に伴う発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

　調査場所　群馬県前橋市小坂子町 1827 - 23 ほか

　発掘調査期間　平成 17 年 5 月 10 日 ~ 平成 17 年 5 月 30 日

　整理・報告書作成期間　平成 17 年 12 月 22 日 ~ 平成 18 年 3 月 3 日

　発掘・整理担当者　大﨑 和久・遠藤 たか美（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は大﨑・遠藤が行った。

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

　阿部シゲ子・秋元恵理子・井上和久・神澤とし江・北爪啓子・斉藤頼江・杉渕富雄・登坂うた子

　友永　茂　・中山　昭　・中村富子・萩原秀子　・橋本　茂・平林茂利・森下陽介

6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の 1/25,000 地形図（前橋）、1/2,000 前橋市　現形図を使用した。

3．遺跡の略称は、次のとおりである。小坂子一木峯遺跡Ⅱ :17C36

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　W…溝跡　D…土坑　P…ピット

　遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

　遺構　住居跡・溝跡・土坑・ピット…1/60　竈断面図…1/30　全体図…1/200

　遺物　土器…1/3　石器・石製品…1/3

5．計測値については、(　) は現存値、[　] は復元値を表す。

6．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

　As-B　（浅間 B 軽石 : 供給火山・浅間山、1108 年）

　Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ : 供給火山・榛名山、6 世紀中葉）

　Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ : 供給火山・榛名山、6 世紀初頭）

　As-C　（浅間 C 軽石 : 供給火山・浅間山、4 世紀前半 ~ 中葉）

目　　次

はじめに
例　　言
凡　　例
目　　次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯・・・

挿図目次

Fig. 1　周辺の遺跡・・・

Ⅰ　調査に至る経緯

平成 16 年度に小坂子町地内での道路改良事業実施に伴う埋蔵文化財発掘調査が実施された。このとき、道路改良事業実施予定地に発掘調査を実施できない箇所があった。

平成 17 年４月 12 日付けで前橋市長より発掘調査依頼があらためて市教委宛に提出された。市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施を通知し、調査団がこれを受諾した。その後、調査団と事業課である前橋市農村整備課とで協議・調整を図り、４月２８日付けで埋蔵文化財発掘調査委託業務契約を締結した。５月１０日より重機による表土掘削が開始となった。

本調査を実施する遺構の名称は、小坂子一木峯遺跡Ⅱである。「一木峯」は旧地籍の小字名であり、２次調査を意味するⅡを付けている。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１．遺跡の立地

小坂子一木峯遺跡Ⅱは、赤城山の南麓、前橋市中心市街地から北東へ約 7.4km、上毛電鉄江木駅から北方へ約 2.8km に位置する。

本遺跡は、赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に広がる傾斜地にある。遺跡周辺には、赤城山麓を水源とする小中河川が数多く南流し、南北に長い舌状の丘陵とその丘陵を浸食する谷地をつくる。東へ約 1km 地点に寺沢川、西へ約 2.2km 地点に藤沢川、南西へ約 1.5km 地点には薬師川が南流する。北方に赤城山を仰ぎ、南方に関東平野を見渡し、西方には榛名山や浅間山を望むことができる。

周囲における丘陵性の台地は宅地や畑、低地である谷部分は水田として利用されている。遺跡は舌状の台地に立地し、調査区は南北 124m のトレンチ状に設定されており、北端の標高 235m、南端は 229m、両者の差は約 6m に及ぶ。

２．歴史的環境

一木峯遺跡の立地する赤城山南麓には、旧石器時代～近代に至る多くの遺跡が存在する。

本遺跡近辺では、南西へおよそ 750m 地点にある川白田遺跡（26）で、縄文前期の住居跡 22 軒と軽石製品が多数出土した。遺跡の東 850m 付近、寺沢川の西側に所在する横沢新屋敷遺跡（15）では、縄文前期を中心とした竪穴住居跡 26 軒が確認されている。また、竪穴式古墳が４基、奈良・平安時代の炭窯が１基、中近世の土葬墓４基、神社跡が確認され、縄文、古墳～中近世に至る遺構が検出されている。遺跡から北西へ 750m の地点にある小坂子油田Ⅰ・Ⅱ遺跡（24）では、円墳３基が確認され、鉄製直刀１口が出土している。また、南西に約 1.7km 下った地点には、檜峯遺跡（28）が立地する。この遺跡は、6 世紀中ごろ～ 10 世紀中ごろにかけての集落跡とみられ、竪穴住居跡 76 軒、掘立柱建物跡１棟が検出された。住居跡からは８世紀代の奈良三彩小壷が出土している。南へ約 750m 付近に荻窪鰯塚遺跡（20）、約１～ 1.2km 地点に荻窪倉兼遺跡（22）・荻窪倉兼Ⅱ遺跡（21）がある。荻窪鰯塚遺跡では 10 世紀代の竪穴式住居跡 10 軒、掘立柱建物跡 10 棟が検出され、1 号掘立柱建物跡は布掘りをもつ。荻窪倉兼遺跡、荻窪倉兼Ⅱ遺跡は８世紀～ 10 世紀にかけての集落跡とみられ、前者では竪穴住居跡が 29 軒、掘立柱建物跡 12 棟が検出された。後者では竪穴住居跡 36 軒、掘立柱建物跡 10 棟が検出されている。両遺跡の竪穴住居跡から墨書土器、刀子や鎌といった鉄製品が出土している。また、遺跡

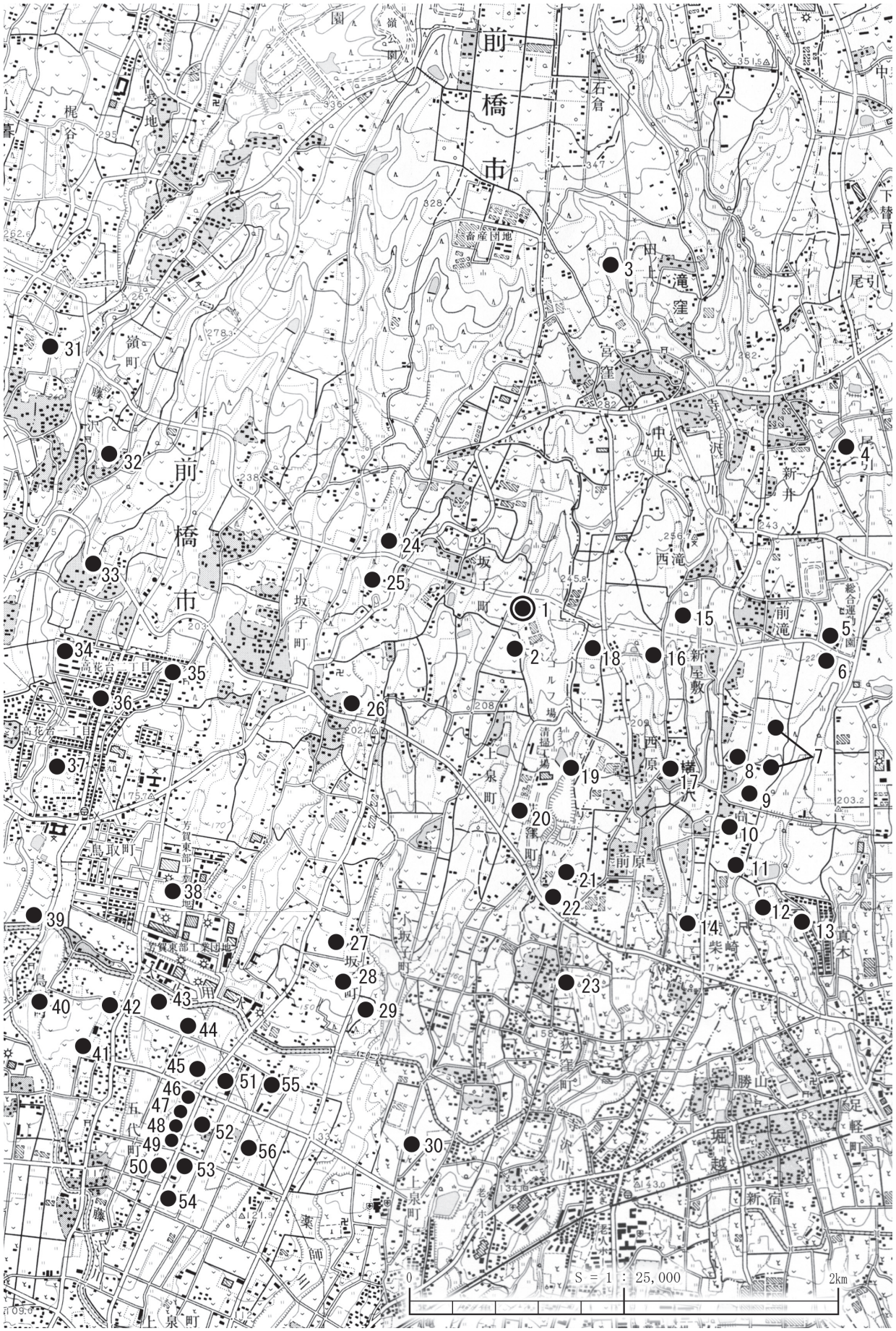


Fig. 1　周辺の遺跡

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	時　代						主な遺構・遺物	文献 No.
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中近		
1	一木峯遺跡Ⅱ							本遺跡	本書
2	一木峯遺跡		○			◎		〔縄文〕土坑　〔古代〕集落跡	(1)
3	西天神遺跡		◎			◎		土坑	(2)
4	乙西尾引遺跡					◎		製鉄炉・炭窯	(2)
5	堀越丙二本松遺跡		◎		◆			〔縄文前期〕土坑	(3)
6	堀越丁二本松Ｂ地点遺跡		◎					〔縄文前期〕竪穴遺構・土坑	(4)
7	堀越丁二本松遺跡		◎			◎		〔縄文〕土坑　〔平安〕掘立柱建物跡・小鍛冶跡	(5)
8	横沢向田遺跡		◎		◆	◎		〔縄文前期〕土坑	(5)
9	横沢向山Ｂ地点遺跡					◎			(6)
10	横沢向山遺跡		◎		◆	○		〔縄文〕土坑　〔古墳〕古墳　〔奈良・平安〕掘立柱建物跡	(5)
11	柴崎古墳群				◆			7 世紀代の古墳群　獅噛環頭太刀の把頭が出土	(7)
12	茂木二本松遺跡		◎						(5)
13	真木遺跡					◆		火葬墓	－
14	柴崎遺跡		○					土坑	(2)
15	横沢新屋敷遺跡		◎		◆	○	◆○	〔縄文〕土坑・集石遺構　〔古墳〕古墳　〔奈良・平安〕炭窯　〔中近世〕土葬墓・神社跡・土坑・溝	(8)
16	横沢大塚遺跡		○		◆			〔縄文〕土坑　〔古墳〕古墳	(9)
17	横沢城址						○	中世の城郭	(10)(11)
18	横沢芳山遺跡					◎		鍛冶遺構・土坑	(9)
19	荻窪東爪遺跡		◎						(12)
20	荻窪鰯塚遺跡					◎		掘立柱建物跡（1 号掘立柱建物跡は布掘りをもつ）	(12)
21	荻窪倉兼Ⅱ遺跡					◎		掘立柱建物跡・溝	(13)
22	荻窪倉兼遺跡					◎		掘立柱建物跡	(13)
23	ほつこし塚古墳				◆			7 世紀代の円墳	(14)
24	小坂子油田Ⅰ・Ⅱ遺跡		○		◆	○		〔縄文〕陥し穴　〔古墳〕円墳・小石槨　〔奈良・平安〕溝	(15)
25	小坂子要害城跡						○	中世の城郭	(11)
26	川白田遺跡		◎				○	〔縄文前期〕土坑・埋設土器・集石　〔近世〕土坑・井戸・畑跡・溝	(16)
27	五代檜峯遺跡				◎				(17)
28	檜峯遺跡				◎	◎		〔平安以降〕溝　　竪穴住居跡から奈良三彩小壺が出土	(18)
29	檜峯古墳				◆			7 世紀代の横穴石室の円墳	(14)(19)
30	新田塚古墳				◆			7 世紀代の円墳	(14)
31	広面遺跡		◎			◎		〔縄文〕土坑　〔平安〕溝　〔中近世〕暗渠状の水路遺構	(20)
32	嶺城跡						○	中世の城郭	(11)(19)
33	東公田古墳				◆			7 世紀後半の円墳	(21)
34	桂正田稲塚古墳				◆			7 世紀後半の方墳	－
35	小坂子城跡						○	中世の城郭	(11)(19)
36	芳賀北部団地遺跡		◎			◎		〔縄文〕敷石住居・配石遺構〔奈良・平安〕掘立柱建物跡・製鉄炉・溝・井戸・土坑	(22)
37	勝沢城跡						○	中世の城郭	(11)(19)
38	芳賀東部団地遺跡		◎		◆◎	◎	○	〔縄文〕土坑〔古墳〕古墳〔奈良・平安〕竪穴遺構・掘立柱建物跡・鍛冶址・精錬跡・溝・土坑・井戸〔中近世〕地下式土坑・土坑・井戸・溝	(23)
39	芳賀北原遺跡		○		◎	◎		〔縄文〕土坑　〔平安〕土坑	(24)
40	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	△				◎		〔旧石器〕細石器	(25)
41	鳥取福蔵寺遺跡		◎		◎	○		〔縄文〕落込み〔古墳～奈良・平安〕掘立柱建物跡・井戸址・精錬鍛冶炉・土坑	(26)
42	鳥取東原遺跡				◎		◆	〔江戸時代〕埋葬施設	(27)
43	五代中原Ⅰ遺跡		◎		◎	◎	○	〔縄文〕土坑　〔平安～中世〕掘立柱建物跡　〔中世〕溝	(28)
44	五代中原Ⅱ遺跡		◎		◎	○	○	〔古墳時代後期以降〕掘立柱建物跡　〔近世以降〕土坑・道路	(29)
45	五代伊勢宮Ⅳ遺跡		◎			◎	○	〔縄文〕集石・土坑　〔奈良・平安〕土坑　〔中近世〕土坑・道路	(28)
46	五代伊勢宮Ⅵ遺跡		◎		◎	◎	○	〔古墳後期～奈良・平安〕鍛冶工房〔奈良・平安～近世〕掘立柱建物跡〔近世〕溝・道路	(29)
47	五代伊勢宮Ⅴ遺跡		◎		◎	◎	○	〔古墳〕小石槨〔奈良・平安〕掘立柱建物跡・溝〔中近世〕竪穴状遺構・溝他	(30)
48	五代伊勢宮Ⅱ遺跡		◎		◎	◎	○	〔古墳〕竪穴状遺構　〔奈良・平安〕掘立柱建物跡　〔近世〕溝	(31)
49	五代伊勢宮Ⅰ遺跡				◎	◎	○	〔近世〕土坑・溝	(32)
50	五代江戸屋敷遺跡		○		◆◎	◎	○	〔縄文〕土坑〔古墳〕方形周溝基・周溝状遺構〔奈良・平安〕掘立柱建物跡・溝・井戸〔中世〕地下式土坑	(33)
51	五代深堀Ⅰ遺跡		◎			◎	○	〔平安～中世〕掘立柱建物跡　〔平安～中近世〕土坑	(34)
52	五代竹花遺跡		◎		◎	◎	○	〔奈良・平安〕土坑〔中近世〕溝・道路跡	(30)
53	五代伊勢宮Ⅲ遺跡		○			◎	○	〔縄文〕土坑〔平安～中世〕掘立柱建物跡・井戸〔中近世〕地下式土坑・溝他	(28)
54	五代木福Ⅰ遺跡		◎		◎	◎	◆○	〔縄文前期〕土坑　〔中近世〕土坑・土葬墓・地下式坑・溝・道路	(30)
55	五代深堀Ⅱ遺跡		◎		◎	◎	○	〔縄文〕土坑　〔中近世〕溝	(28)
56	五代木福Ⅱ遺跡		○		◎	◎	○	〔縄文〕配石遺構〔平安～中近世〕掘立柱建物跡・土坑・溝・井戸　〔中世以降〕地下式土坑	(34)

△は遺物のみ確認　　◆は古墳・墓域　　◎は竪穴住居跡　　○は古墳、墓域、竪穴住居跡を除いた遺構のみ確認

＊　関連文献については、本編末の参考文献一覧中に、上記文献 No. とあわせて明示した。

周辺には小坂子要害城跡（25）や横沢城跡（17）といった中世の城郭跡も点在する。

遺跡周辺に目を向けると、南西に鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡（40）が立地する。この遺跡では、約1万3,000年前に堆積した浅間板鼻黄色軽石層直下の関東ローム層から、多数の細石刃文化石器群が確認されている。また遺跡南西では、昭和48年～55年にかけて大規模な発掘が行われた芳賀団地遺跡群（芳賀北部団地遺跡・西部団地遺跡・東部団地遺跡）がある。芳賀北部団地遺跡（36）では、奈良・平安時代の竪穴住居跡237軒、掘立柱建物跡8棟のほか、縄文時代前期・後期の竪穴住居跡や中期の敷石住居跡、また中世の勝沢城の一部が検出された。芳賀東部団地遺跡（38）では、古墳～奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡約500軒、掘立柱建物跡206棟のほか、古墳時代、縄文時代前期の竪穴住居跡が検出されている。また、近年調査の進む五代南部工業団地造成に伴う遺跡（43～56）でも、縄文、古墳、奈良・平安各時代の集落が確認されている。

Fig. 2　遺跡の位置

Ⅲ　調査の方法と経過

１．調査の方法

前年度に行われた小坂子一木峯遺跡発掘調査結果から、今回の２次調査区からはローム層または同漸移層において奈良・平安時代の遺構が確認できるものと予測された。現地調査は、遺構確認面までの土層を重機にて除去したあとに、精査および遺構覆土の開掘を人力により行った。

調査区全域には、遺構測量のため 4m 間隔のグリッドを設定した。各グリッドは、南北方向をＹ軸とし北から南にＹ１、Ｙ２、Ｙ３・・・、東西方向をＸ軸とし西から東へＸ１，Ｘ２，Ｘ３・・・と付番し呼称する。またグリッド名として、北西交点のグリッドを用いる。これらのグリッドは、小坂子一木峯遺跡と同じものである。

Ｘ５・Ｙ５の公共座標は次のとおり。

旧日本測地系（TKY）　IX系

47,920（X）　　-62,860（Y）

２．調査の経過

平成 17（2005）年 5 月 10 日に調査区北側から重機による表土掘削を開始した。調査区の中間に水道管が埋設されており、水道管両側１ｍを緩衝帯として掘削を避けた。このため調査区が２分されることになった。重機による掘削と平行して遺構確認を行い、12 日に表土掘削、遺構確認を終了した。また、この間に調査区内にベンチマーク、グリッドを設置した。（本調査区隣接北側及び調査区南 120m 地点に公共基準点（3 級）があり、また、本調査が道路改良事業に伴うものであるため、事前に測量が行われた道路境界杭があることからこれらを基にした。）13 日から遺構精査に入り、小坂子一木峯遺跡で検出された住居（北側１/３が調査区外）の続きからはじめ、土坑６基　ピット 24 基　溝２条を検出した。各遺構の写真撮影は随時行い、20 日に全景写真を撮った。翌週 23 日から遺構平面図などの図面作成を行い、25 日に終了。26 日から重機による埋め戻しを開始し 5 月 30 日をもって現地調査に関する全ての行程を終了した。

Ⅳ　基 本 層 序

前橋市の地形・地質は、①北東部の赤城火山斜面、②南西部の洪積台地（いわゆる前橋台地）、③❶・❷にはさまれた広瀬川低地帯、④現利根川氾濫原の４つに大別される。

本遺跡は①に属し、南向きの緩斜面をなすほか、東隣りが谷状のくぼみとなり、東方へ向けゆるやかな傾斜をもつ。

Ⅰ	表　土	現耕作土及び盛り土。
Ⅱ	暗灰褐色土	やや砂質。締りは強いが、粘性はない。
Ⅲ	暗褐色土	径５～ 10mm の FP 粒を多く含む。締り、粘性とも少しあり。
Ⅳ	暗黄褐色土	ローム漸移層。柔らかく、締りなし。本層下部を遺構確認面とした。
Ⅴ	黄褐色土	黄色の軽石粒を僅かに含む。締りあり、粘性少しあり。
Ⅵ	黄褐色土	白色・黄色の軽石粒を全体に含む。締り、粘性とも強い。

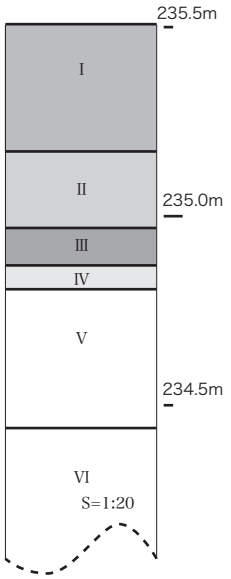


Fig. 3　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

１．竪穴住居跡

H－１号住居跡（Fig. ５、PL. ２）

位置　X4 ～ 5, Y35 ～ 36 グリッド。　**主軸方向**　おおむね東をさすものと推測される。(N－89°－W)　**形状等**　方形と推定される。東西（2.41m)、南北 4.54m、壁高　55 ～ 45cm を測る。壁面の堀り込みは、50 ～ 60°とゆるやかな傾斜を示す。　**面積**　9.98 ㎡　**床面**　床面は全体的に平坦で、微弱ながら部分的に硬化が認められる。　**周溝**　南北壁に存在。　**竈**　東壁の南寄りに付設され、主軸方向は、N－83°－W　全長 1.20m、最大幅 1.17m。　**備考**　竈を含む大部分の調査が前年度に行われている。他遺構との重複はない。床直より「コ」の字状口縁の甕の破片が出土しており、時期は９世紀中葉と考えられる。

２．溝

W－１号溝　(Fig. ５、PL. ３)

位置　X 10 ～ 12,　Y ５・６　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　U字形。長さ（7.6）m、深さ 72cm、最大上幅 2.40 m、最大下幅 1.34 mを測る。　**出土遺物**　なし。　**備考**　時期は埋土からＡｓ－Ｂ降下以前である。それ以上の特定は難しく、不明である。

W－２号溝　(Fig. ５、PL. ３)

位置　X ４･5, Y 23 ～ 34　**主軸方向**　(N－4°－E)　**形状等**　U字形。長さ(44.7)m、深さ 1.04m、最大上幅(1.1) m、最大下幅（0.82）mを測る。　**出土遺物**　なし。　**備考**　時期は埋土からＡｓ－Ｂ降下以前である。それ以上の特定は難しく、不明である。

３．土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab. ２　(P. ７）を参照のこと。

４．グリッド出土遺物

総数４点の遺物が出土した。そのうち、縄文土器３点、石器１点を図示した。(Fig. ７)

Tab. 2　土坑・ピット一覧表

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形 状
D-2	X9,Y15	109	79	24	楕円形
D-3	X8・9,Y15	120	113	48	円形
D-15	X5,Y29	98	85	24	円形
D-17	X5,Y29・30	170	93	19	楕円形
D-19	X5,Y31	57	46	44	楕円形
D-20	X5・6,Y32	(35)	35	41	(円形)
P-6	X9,Y12	85	44	27	楕円形
P-7	X9,Y13	77	76	36	円形
P-8	X9,Y13	42	35	18	円形
P-11	X8・9,Y14	83	56	37	楕円形
P-12	X9,Y14	87	60	24	楕円形
P-15	X9,Y15	67	47	34	楕円形
P-17	X9,Y16	52	40	23	楕円形
P-24	X7,Y18・19	59	45	19	楕円形
P-25	X7,Y19	74	41	22	楕円形
P-28	X6,Y20	72	53	18	楕円形
P-29	X6,Y20	66	50	32	楕円形
P-32	X6,Y21	23	20	28	円形
P-33	X6,Y21	31	25	60	円形
P-34	X6,Y21	47	34	35	楕円形
P-35	X6,Y21・22	70	58	36	楕円形
P-37	X6,Y22	55	54	7	円形
P-38	X6,Y22	49	45	13	円形
P-39	X6,Y22	82	55	17	楕円形
P-56	X5,Y32・33	62	61	12	円形
P-58	X5,Y33	61	57	25	円形
P-59	X5,Y33	35	26	10	円形
P-60	X5,Y33・34	54	44	12	楕円形
P-66	X7,Y22	55	50	20	円形
P-69	X5,Y35	69	45	14	楕円形

Tab. 3　溝一覧表

遺構名	位置	長さ（m）	最大幅（m）		深さ（m）	断面形	主軸方向	時代
			上幅	下幅				
W-1	X10~12,Y5・6	7.6	2.4	1.34	0.72	U 字形	N-74° -E	不明
W-2	X4・5,Y23~34	44.7	(1.1)	(0.82)	1.04	逆台形	N-4° -E	不明

Tab. 4　縄文時代遺物観察表

番号	遺構番号	時期・形式	器種	残存	色調	胎土	特徴
J1	X10,Y9	縄文時代前期後葉・諸磯 c	深鉢	胴部	にぶい橙	粗砂粒	ボタン条貼り付け文半裁竹管の条線
J2	X5,Y34	縄文時代前期後葉・諸磯 c	深鉢	胴部	にぶい橙	粗砂粒	ボタン条貼り付け文半裁竹管の条線
J3	D-17	縄文時代前期後葉・諸磯 c	深鉢	口縁部～胴部	にぶい赤褐色	粗砂粒	縦位の浮線文

Tab. 5　石器観察表

番号	遺構番号	長さ（cm）	最大幅（cm）	厚さ（cm）	石材
S1	X10,Y7	7.5	3.9	1.8	安山岩

Ⅵ　成果と問題点

本遺跡は赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に広がる傾斜地で、すぐ東は谷地部になる舌状台地の東側に位置する。ここでは、本遺跡南の平成 16 年度調査「小坂子一木峯遺跡」と合わせて、この台地部を概観する。

本調査区の地層は、①約 30 ㎝の現耕作土層、②約 20 ㎝の盛り土層、③約 10 ㎝の Hr-FP 混土層、④約 5 ㎝のローム漸移層、⑤⑥ローム層となり、遺構は④層を掘り込んで構築されている。「小坂子一木峯遺跡」の地層もほぼ同様であるが、③層が約 50 ㎝と厚く堆積している。また、両遺跡とも As-B 混土層の堆積が認められないことから、後世の削平により上層部のかなりの部分が消失していると考えられる。

縄文時代の遺構は本遺跡では検出されず、遺物は遺構外から前期の諸磯 c 式の土器片 3 点と打製石斧 2 点が出土した。「小坂子一木峯遺跡」では、遺構は後期後葉の土器片が比較的まとまって出土した竪穴状遺構 1 基と土坑 1 基が検出され、遺物は遺構外から前期の諸磯 b 及び c 式を中心に土器片 45 点が出土した。竪穴状遺構に関しては不明瞭な部分が多いが、遺物の出土から、この台地部で縄文時代前期及び後期のなんらかの生活が想定される。

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡 1 軒を検出しているが、この住居跡は昨年度の調査で検出された住居跡の続きである。底部に糸切り痕が残る須恵器の坏片や、「コ」の字口縁の土師器甕の残片が出土していることから、9 世紀中頃と考えられる。

その他に、溝跡 2 条が検出された。1 つは東西方向に走向する断面形状が浅いU字形のW－1 号溝跡で、1 つは南北方向に走向する断面形状が逆台形のW－2 号溝跡である。両溝跡とも下部に Hr-FP 混土層が堆積し埋土に As-B 軽石を僅かに含んでくることから、時期は As-B 降下以降と考えられる。「小坂子一木峯遺跡」では 8 世紀後葉から 9 世紀中葉と想定される竪穴住居跡が 8 軒検出されており、本遺跡では竪穴住居跡の検出がなく、舌状台地の東縁部に位置するということから、本遺跡地がこの集落の北東辺域の可能性も考えられ、溝跡との関係も類推される。しかし、「小坂子一木峯遺跡」では北側部（3 区）で布掘り状の溝状遺構があり当時の施設の存在も想定され、また、台地部西側の調査が行われていないことなどから想像の域を脱し得ない。

本調査は、6 m幅の道路予定地という大きな制約の中で行われたもので、遺構相互の関連や集落の構成について詳しく捉えることができなかった。今後、周辺の調査成果の蓄積を待ち更に検討していきたい。

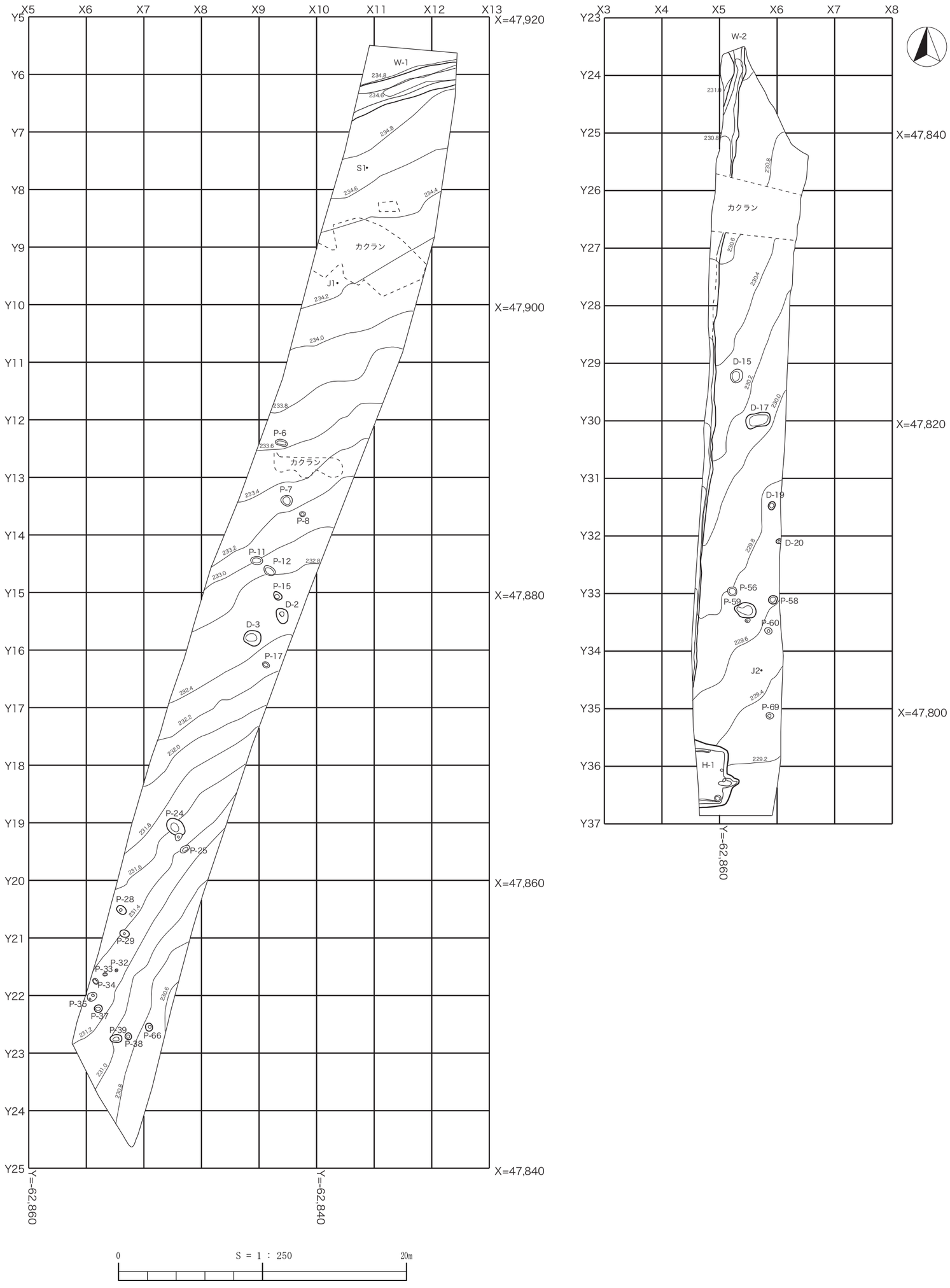
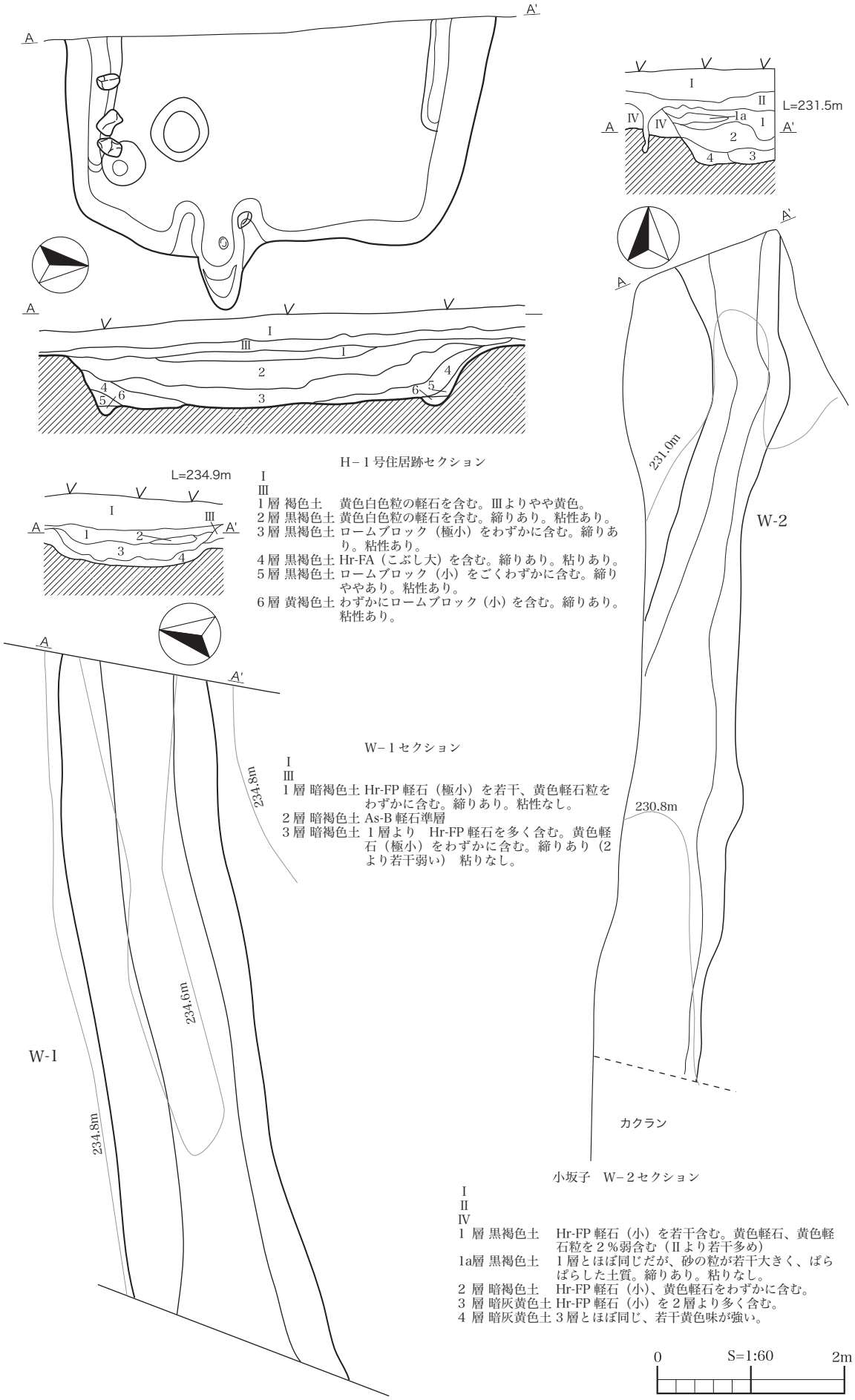

X5 X6 X7 X8 X9 X10 X11 X12 X13
Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12 Y13 Y14 Y15 Y16 Y17 Y18 Y19 Y20 Y21 Y22 Y23 Y24 Y25
X=47,920
X=47,900
X=47,880
X=47,860
X=47,840
Y=-62,860
Y=-62,840
W-1
S1
カクラン
J1
P-6
P-7
P-8
P-11
P-12
P-15
D-2
D-3
P-17
P-24
P-25
P-28
P-29
P-32
P-33
P-34
P-35
P-37
P-39
P-38
P-66
X3 X4 X5 X6 X7 X8
Y23 Y24 Y25 Y26 Y27 Y28 Y29 Y30 Y31 Y32 Y33 Y34 Y35 Y36 Y37
W-2
カクラン
D-15
D-17
D-19
D-20
P-56
P-59
P-58
P-60
J2
P-69
H-1
X=47,840
X=47,820
X=47,800
Y=-62,860
0
S = 1 : 250
20m

Fig. 4 遺構全体図



H－１号住居跡セクション

I
III
1 層 褐色土　黄色白色粒の軽石を含む。IIIよりやや黄色。
2 層 黒褐色土 黄色白色粒の軽石を含む。締りあり。粘性あり。
3 層 黒褐色土 ロームブロック（極小）をわずかに含む。締りあり。粘性あり。
4 層 黒褐色土 Hr-FA（こぶし大）を含む。締りあり。粘りあり。
5 層 黒褐色土 ロームブロック（小）をごくわずかに含む。締りややあり。粘性あり。
6 層 黄褐色土 わずかにロームブロック（小）を含む。締りあり。粘性あり。

W－１セクション

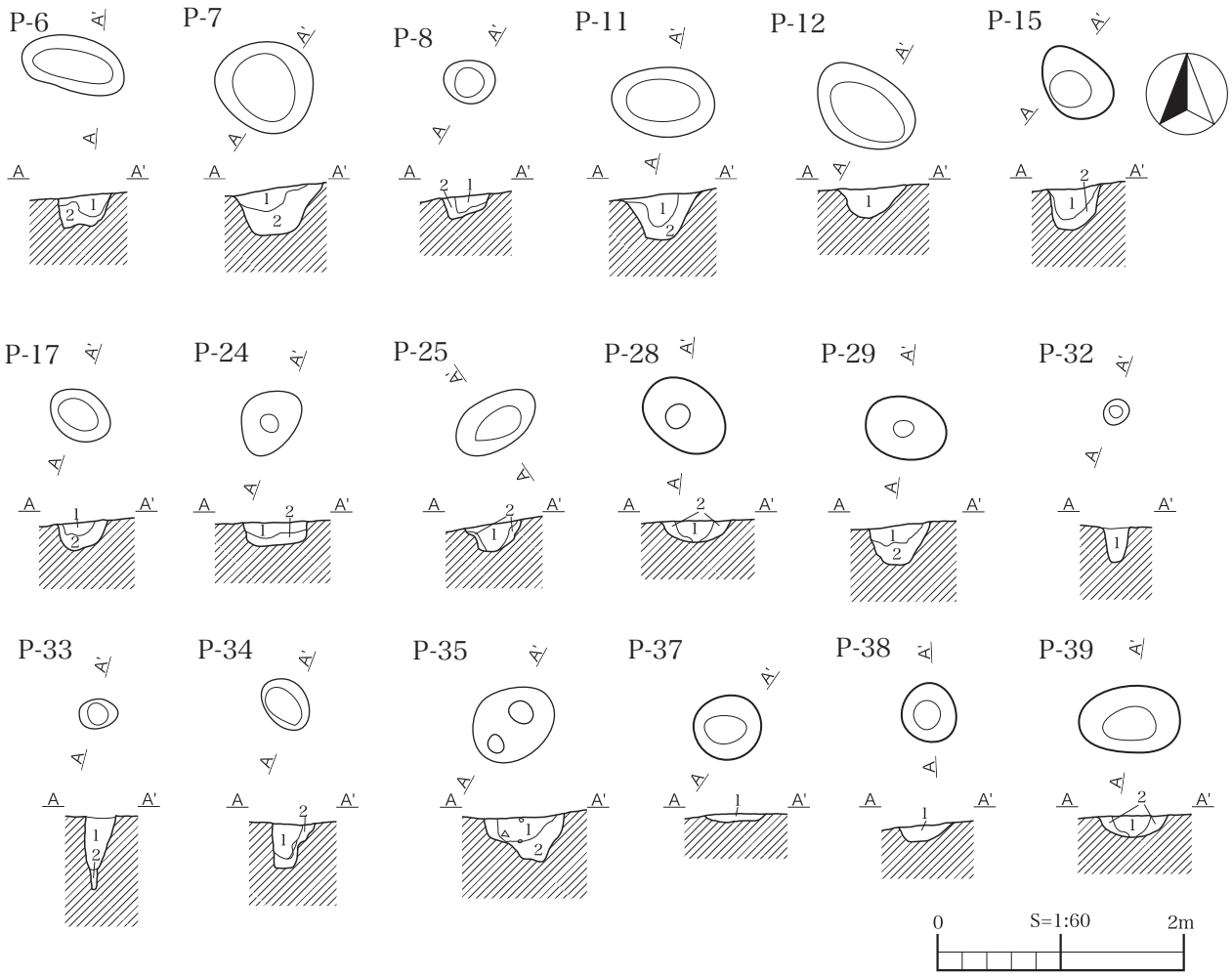
I
III
1 層 暗褐色土 Hr-FP 軽石（極小）を若干、黄色軽石粒をわずかに含む。締りあり。粘性なし。
2 層 暗褐色土 As-B 軽石準層
3 層 暗褐色土 1 層より　Hr-FP 軽石を多く含む。黄色軽石（極小）をわずかに含む。締りあり（2 より若干弱い）　粘りなし。

小坂子　W－２セクション

I
II
IV
1 層 黒褐色土　Hr-FP 軽石（小）を若干含む。黄色軽石、黄色軽石粒を２％弱含む（IIより若干多め）
1a層 黒褐色土　1 層とほぼ同じだが、砂の粒が若干大きく、ぱらぱらした土質。締りあり。粘りなし。
2 層 暗褐色土　Hr-FP 軽石（小）、黄色軽石をわずかに含む。
3 層 暗灰黄色土 Hr-FP 軽石（小）を２層より多く含む。
4 層 暗灰黄色土 3 層とほぼ同じ、若干黄色味が強い。

0　S=1:60　2m

Fig. 5　H-1 号住居・W-1,2 号溝



P-6 セクション
1 層 黒褐色土 締り非常にあり。粘性なし。Hr-FP（極小）1% 未満、As-C（極小）1% 未満、黄色粒（小）1% 未満含む。
2 層 黄褐色土 締りややあり。粘性なし。1 層よりやや黄味が強い。黄色軽石(小) 1% 含む。

P-7 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）3%、黄色粒（極小）1%、白色軽石（極大）3% 含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

P-8 セクション
1 層 茶褐色土 締り非常にあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、黄色軽石 1% 未満含む。
2 層 茶褐色土 締りややあり。粘性ややあり。1 より若干黄色味が強い。

P-11 セクション
1 層 黒褐色土 締り非常にあり。粘性なし。Hr-FP（極小）1% 未満、As-C（極小）1% 未満、黄色粒（小）1% 未満含む。
2 層 黄褐色土 締りややあり。粘性なし。1 層よりやや黄味が強い。黄色軽石(小) 1% 含む。

P-12 セクション
1 層 黒褐色土 締り非常にあり。粘性なし。Hr-FP（極小）1% 未満、As-C（極小）1% 未満、黄色粒（小）1% 未満含む。
2 層 黄褐色土 締りややあり。粘性なし。1 層よりやや黄味が強い。黄色軽石(小) 1% 含む。

P-15 セクション
1 層 黒褐色土 締り非常にあり。粘性なし。Hr-FP（小）1% 未満、黄色粒（中）1%、黄色軽石（小）1% 未満含む。若干黒色味が強い。
2 層 黄褐色土 締りあり。粘性なし。黄軽石を 1% 未満含む。1 層よりやや黄味が強い。

P-17 セクション
1 層 黒褐色土 締り非常にあり。粘性なし。Hr-FP（小）% 未満、黄色粒（中）1% 未満、黄色軽石（小）1% 未満含む。
2 層 黄褐色土 締りややあり。粘性なし。黄色軽石 1% 含む。1 層よりやや黄味が強い。

P-24 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘りなし。軽石（小）1% 未満含む。

P-25 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）1%、As-C（極小）1% 未満含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

P-28 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（小）3%、As-C（極小）1% 含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

P-29 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）、As-C（極小）1% 含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

P-32 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）、As-C（極小）1% 含む。

P-33 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）、As-C（極小）1% 含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

P-34 セクション
1 層 黒褐色土 Hr-FP（極小）2%、黄色ブロック（小）3%、黄色軽石 1% 未満含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

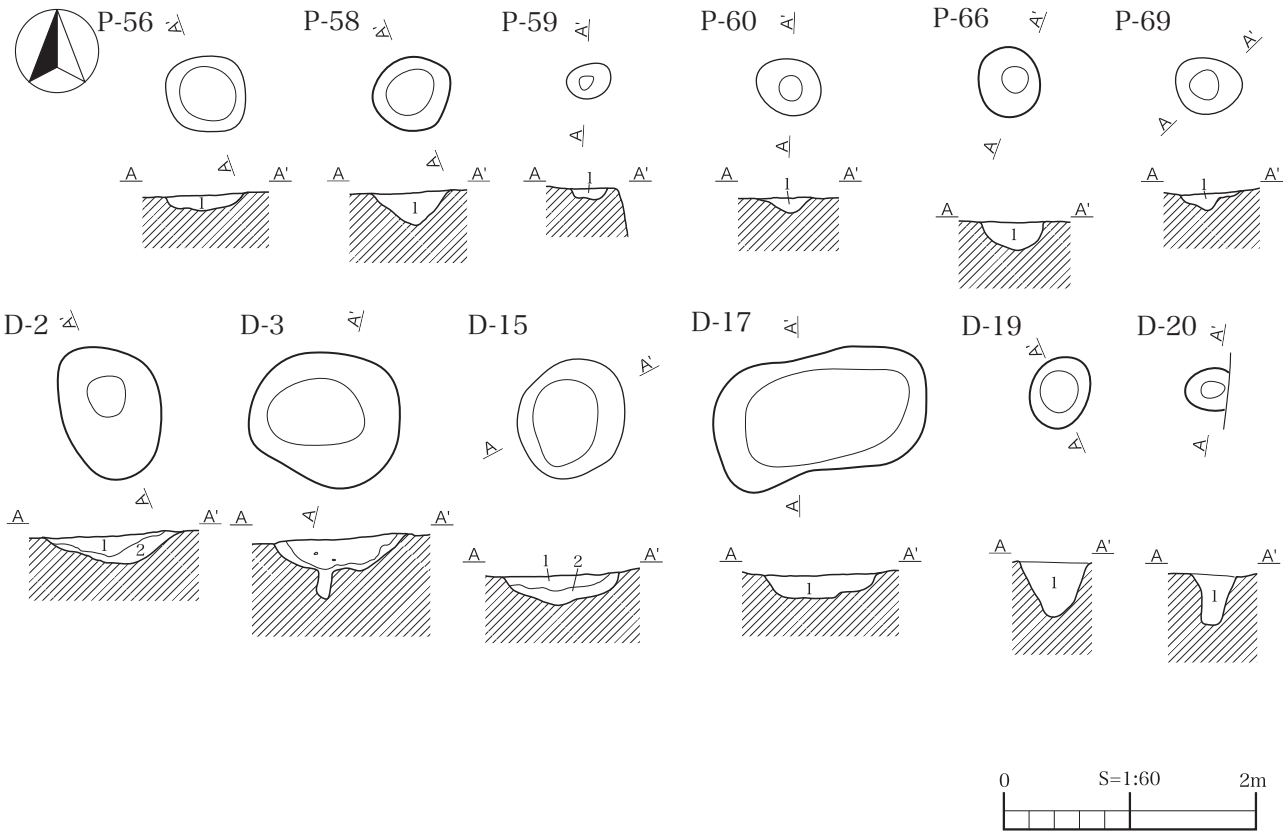
P-35 セクション
1 層 黒褐色土 Hr-FP（極小）5%、黄色ブロック（極小）3%、As-C（極小）1% 未満、含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

P-37 セクション
1 層 黒褐色土 Hr-FP（極小）3%、As-C（極小）1% 未満含む。

P-38 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）3%、As-C（極小）1% 未満含む。

P-39 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性なし。Hr-FP（極小）3%、As-C（極小）1% 未満含む。
2 層 黒褐色土 締りややあり。粘性なし。白色軽石 1% 未満含む。若干黄味が強い。

Fig. 6　ピット



P-56 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、As-C（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

P-58 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、As-C（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

P-59 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、As-C（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

P-60 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、As-C（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

P-66 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、黄色軽石（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

P-69 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、As-C（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

D-2 セクション
1 層 黒褐色土 締りあり。粘性ややあり。Hr-FP（中）5% 含む。
2 層 黄褐色土 締りあり。粘性なし。黄軽石を 1% 未満含む。1 層よりやや黄味が強い。

D-3 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。黒味が強く、Hr-FP（小）3%、黄色軽石 1% 未満、炭化物（中）10% 含む。
2 層 黄褐色土 締りあり。粘性なし。黄軽石を 1% 未満含む。1 層よりやや黄味が強い。

D-15 セクション
1 層 黒褐色土 締り非常にあり。粘性なし。Hr-FP（中）5%、黄色粒（極小）10% 含む。

D-17 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、黄色軽石（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

D-19 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、黄色軽石（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

D-20 セクション
1 層 黒褐色土 締りややあり。粘性ややあり。Hr-FP（小）3%、黄色軽石（中）3%、黄色粒（極小）1% 含む。

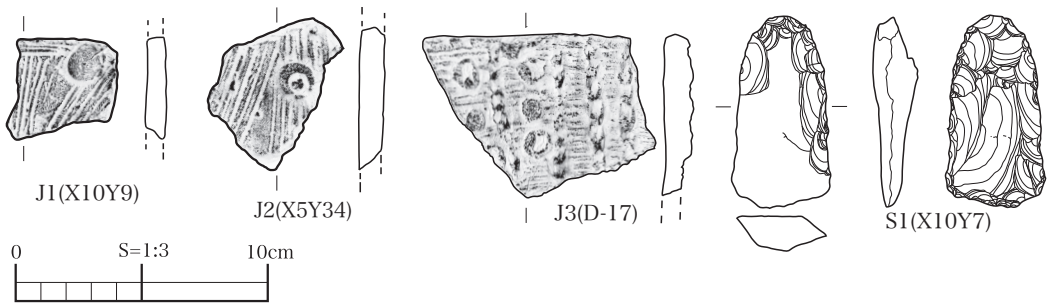
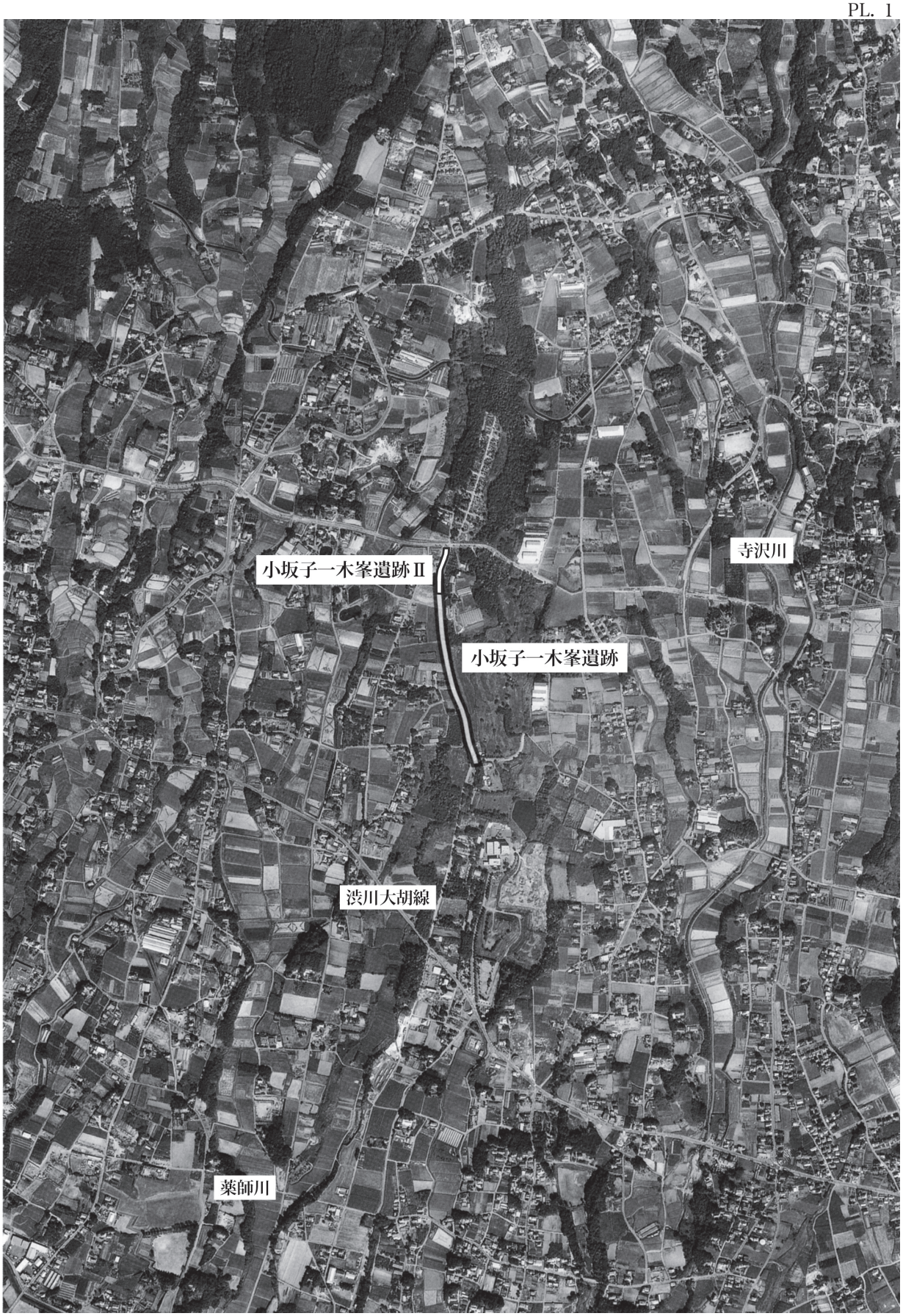


Fig. 7　ピット・土坑・出土遺物

写　真　図　版

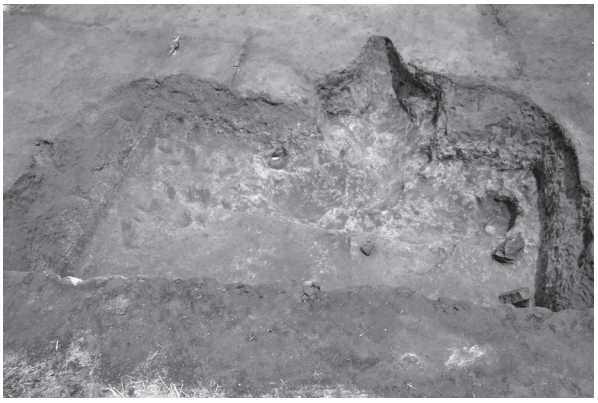


（国土地理院 2001 年 10 月撮影）

0　S = 1 : 15,000　2km

遺跡の位置と周辺の地形

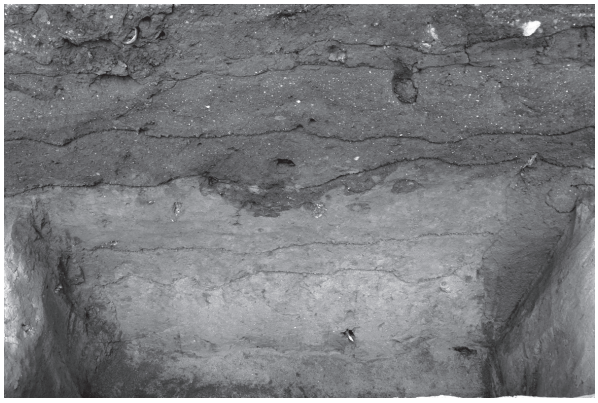
▲調査区全景（南から）



▲Ｈ－１号住居跡（西から）

▲Ｈ－１号住居跡セクション（東から）

▲Ｐ－３５号ピットセクション（東から）



▲基本土層（東から）

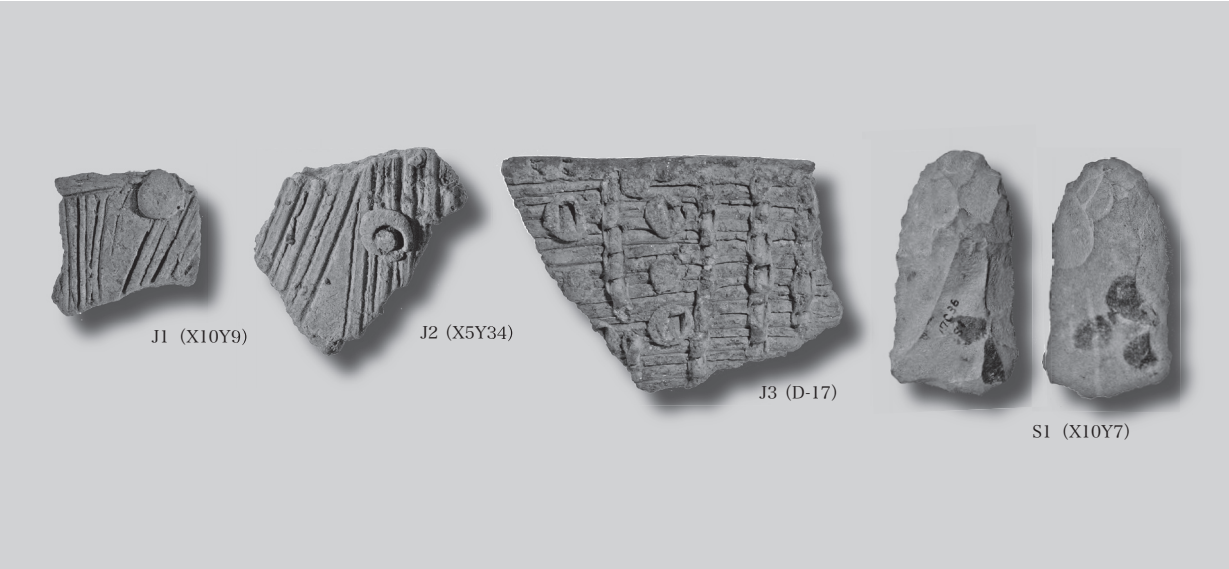
▲W－２号溝セクション（南から）

▲W－１号溝セクション（西から）

▲W－１号溝（西から）

▲W－１号溝（北から）

▲作業風景　（北から）



▲小坂子一木峯遺跡Ⅱ　出土遺物

報告書抄録

フリガナ	コザカシイチキミネイセキニ
書名	小坂子一木峯遺跡Ⅱ
副書名	小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道 06-475）改良事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	大﨑 和久・遠藤 たか美
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒 371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目 10-2
発行年月日	西暦 2006 年 3 月 23 日

所収遺物名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
小坂子一木峯遺跡Ⅱ（コザカシイチキミネ イセキニ）	前橋市小坂子町 1827-23（マエバシシコザカシ マチ）	10201	17C36	36° 25'59"	139° 07'44"	20050510~20060320	768 ㎡	小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道 06-475）改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
小坂子一木峯遺跡Ⅱ	集落跡	奈良・平安時代 中世	（奈良・平安時代）竪穴住居跡 1 軒、（中世）溝 2 条、土坑 6 基、ピット 24 基他	縄文土器、土師器、須恵器、石器等

小坂子一木峯遺跡Ⅱ

小坂子町地内最終処分場西側生活道路（市道 06-475）改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2006 年 3 月 23 日 発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目１０－２
TEL　０２７－２３１－９５３１

印　刷　日本特急印刷株式会社
前橋市下小出町２－９－２５
TEL　０２７－２３３－２００２